

事 例 集

都市間・地域間交流を促進する広域的な公共交通の整備と活用

- 事例-A 仙台空港アクセス鉄道の開業に伴う広域交流促進
- 事例-B 庄内地域の高速バス停のターミナル化

快適で活力を生み出す都市交通の整備・改善

- 事例-C I G Rいわて銀河鉄道による新駅設置
- 事例-D 仙台市オムニバスタウン
- 事例-E 津軽フリーパス

安心して暮らし続けられる地域づくりのための「地域の足」の確保

- 事例-F 会津鉄道再活性化
- 事例-G 特定地域乗合タクシー「いない号」
- 事例-H 秋田県上小阿仁村における有償ボランティア輸送

環境に優しい交通体系の整備

- 事例-I グリーン物流の推進

観光振興戦略

- 事例-J 冬の観光時の利便性向上「手ぶらでスキー」
- 事例-K YOKOSO! JAPAN 東北・春

事例-A

施策名	仙台空港アクセス鉄道の開業に伴う広域交流促進
地域	宮城県
答申施策	1(1) 仙台空港アクセス鉄道の着実な整備の推進と仙台空港の広域利用促進策の検討
時期	平成18年度開業予定

- 仙山線・東北線と仙台空港アクセス鉄道との相互直通化を視野に入れたシームレス化についての検討

山形・松島方面からの仙台空港利用の利便性向上

- 仙台空港アクセス鉄道の「仙台まるごとバス」への組み入れ等、旅行商品の造成

商工・観光関係者と一体となった利用促進

広域交流の促進

仙山線・東北線との相互直通化を
視野に入れたシームレス化の検討



仙台空港アクセス鉄道

(平成18年度末開業予定)
仙台駅～仙台空港間
快速17分、普通23分

航空会社・旅行会社とのタイア
ップによる利用促進

仙台まるごとバス
への組み入れ

本プロジェクト推進のための調査の概要

- 空港アクセス調査(機内アンケート、Webサイト上アンケートを実施)
- 旅行エージェント等に対するヒアリング調査(在仙及び仙台空港からの就航先エージェント等)

事例-B

施策名	庄内地域の高速バス停のターミナル化
地域	山形県
答申施策	1(2) 東北地方内の都市間を結ぶ高速バス網の充実
時期	平成17年度

庄内地域の観光客入り込み数 1,128 万人 (H15)
高速バスの利用者が多い (主に仙台方面)

問題点 鶴岡市内のバスターミナルまで行かないと主な観光地へアクセスできない

- 鶴岡 IC (庄内物産館) バス停をターミナル化し、路線バス、小回りの利く観光乗合タクシーを運行
- 高速バスと路線バスの乗り継ぎ割引を導入
- 高速バス利用者に対する観光施設、土産物屋などとタイアップした特典サービスの展開
- P & R の施設を備えた多機能な高速バス停

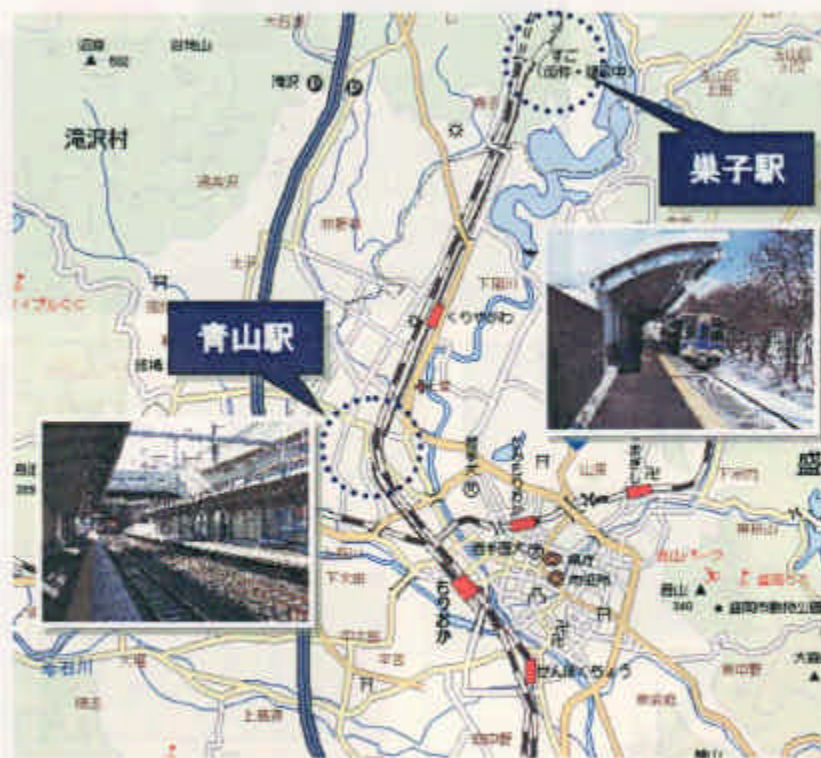
○ 地元観光物産施設の協力 (用地の提供等) による交通結節点 (バス・タクシーターミナル) の整備

公共交通相互の乗継ぎ円滑化・利便性向上

地域の協力の下での公共交通の利用促進

事例-C

施策名	IGRいわて銀河鉄道による新駅設置
地域	岩手県 盛岡市・滝沢村
答申施策	3(2) 地方鉄道・地方バス・離島生活航路の改善
時期	平成18年3月18日開業



計画目的

- マイカーへの依存が多い
- 通勤通学時間帯以外の利用者が少ない

新駅の設置によるIGRの利用促進

●新駅の利用促進

新駅を経由するコミュニティバスの検討

既存バス路線の分割・再編 等

鉄道とバスの共通乗車券の検討

鉄道と
バスの
共存共栄

※巣子駅周辺住民に対してアンケートを実施（平成17年12月）

事例-D

施策名	仙台市オムニバスタウン
地域	宮城県 仙台市
答申施策	2(2) バス利用環境の改善
時期	平成13年度～平成17年度

●バスロケーションシステム導入●

【仙台市交通局、宮城交通㈱】

インターネット対応型の携帯電話やPCを中心としたバス接近情報等の提供。

現在『るーぶる仙台』で配信中



計画目的

アクセス30分構想をふまえ、鉄軌道と結節するバスネットワークによる利便性の高いバス交通を実現し、自動車交通から公共交通への転換を促進することによって、道路渋滞の緩和や環境負荷の軽減等を目指す。

計画期間：平成13年度～17年度

●デジタル行先表示の導入●

【仙台市交通局、宮城交通㈱】

視認性の高い高輝度発光「イット」方向幕の整備

計画：485両（仙台市交通局）
150両（宮城交通㈱）



●バス総合案内システム●

【国土交通省、(社)宮城県バス協会】

JR仙台駅を発車するバスのりば等を案内する情報端末を、仙台駅構内、青葉通地下歩道内に設置



JR仙台駅2階



●快適なバス待ち空間の整備●

【国土交通省、交通局、宮城交通、仙台市】

バス停への上屋、ベンチ等の設置

現況：約350箇所
計画：90箇所



地下鉄広瀬通駅

●超低床車両・低公害車両の導入●

【仙台市交通局、宮城交通㈱】

バリアフリーや環境に配慮した車両の導入

	～H13	計画
ノンステップバス	3両	26両
ワンステップバス	41両	41両
CNGノンステップバス	—	4両
CNGワンステップバス	4両	12両
計	48両	83両

●公共交通利用促進PRの展開●

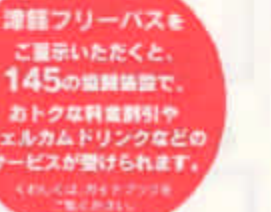
【国土交通省、仙台市】

市の広報媒体やテレビCM、シンポジウム等、様々な機会を利用して、公共交通の利用促進に向けたPR活動を実施する。

が急務

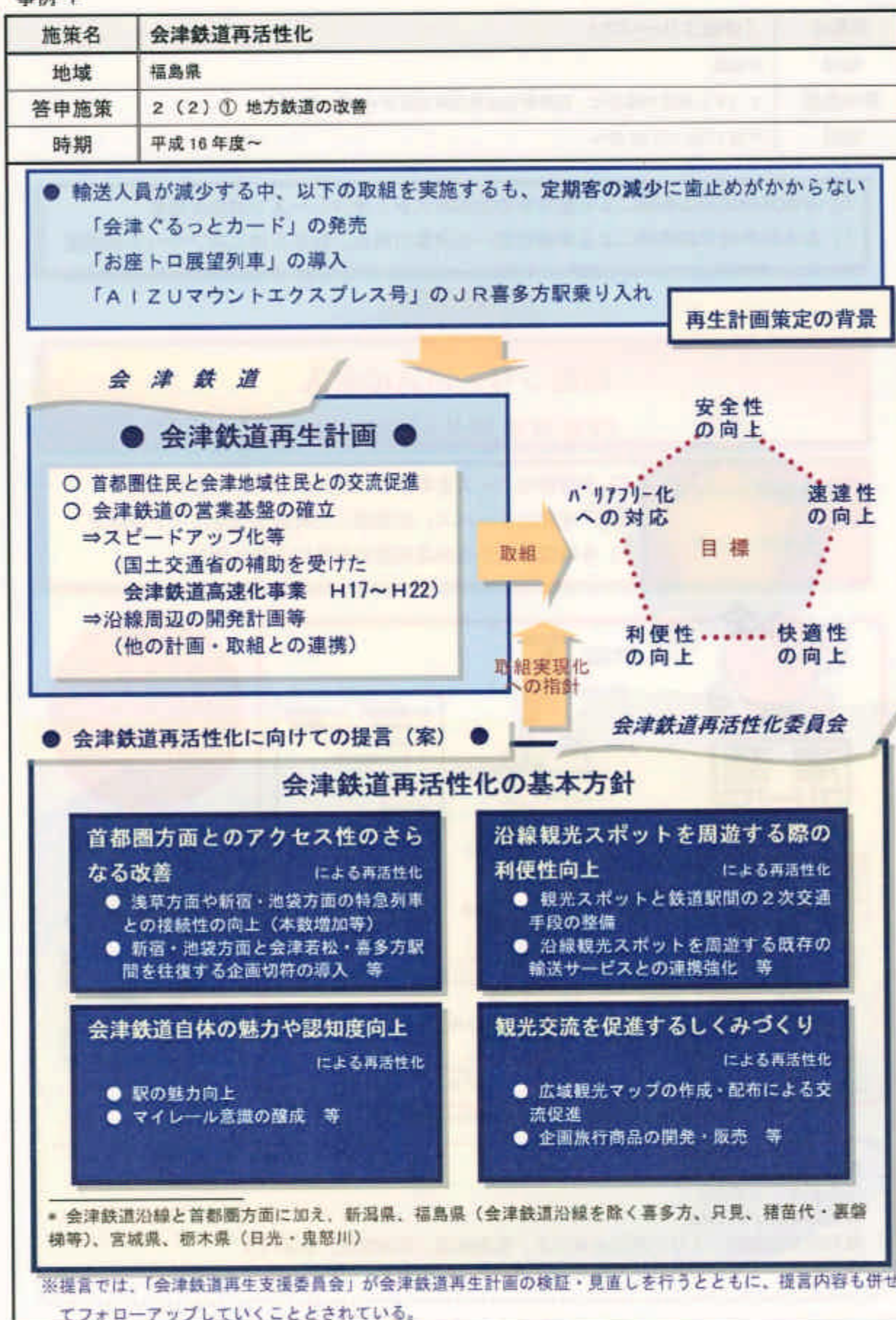
アクセスが課題

-



-

事例-F



事例-G

施策名	特定地域乗合タクシー「いない号」
地域	宮城県 石巻市 稲井地区
答申施策	3(1) 地域一体となった公共交通のあり方の検討 3(3) バスとタクシーの中間形態の導入
時期	平成16年12月1日～

- 平成9年9月に路線バスの廃止 ⇒ 廃止代替バスの運行開始
- 平成16年11月に廃止代替バスの廃止

稲井地域乗合タクシー
運行協議会設立

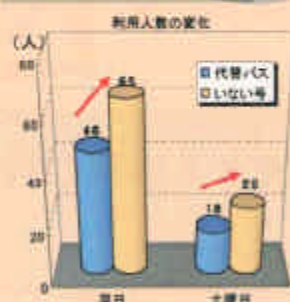
住民アンケート（稲井地区全18行政区）より
「経費を負担してでも、
本数を減らしてでも生活の足は確保したい」

平成16年12月 乗合タクシーの運行



「いない号」概要

- 運営：稲井地域乗合タクシー運行協議会
- 運行主体：三陸タクシー（21条許可）
- 車両：9人乗りジャンボタクシー
- 運賃：300円～700円
- 負担金：各行政区、個人寄付金（1口1,000円）
- 利用状況：運行当初は1,200～1,300人/月
現在は1,400～1,500人/月
- 廃止代替バスの時よりも利用人数が増加
- バス運行経費（2,300万円）の半分以上で運行。
市の補助金も大幅削減（1,500万円→100万円（H17見込み））



事例-H

施策名	秋田県上小阿仁村における有償ボランティア輸送
地域	秋田県 上小阿仁村
答申施策	3(3) 新たな「地域の足」の開発と普及
時期	平成17年12月～

上小阿仁村の交通状況

● 県内交通

<路線バス>・1日1便～7便の運行。

・ジャスコ等大規模小売店舗のある五城目方面へは1日1便のみとなっており、住民の利用希望時間帯と運行時間帯が合っていない。

<タクシー>・村内で2台の運行。

・通院目的の利用が多く、利用時間帯が集中する。

● 県外交通

秋田北空港：タクシーのみで運賃が高い（片道約1万円）

秋田空港：JR秋田駅からリムジンバス

→ 1日1往復のみ

JR秋田駅：バスで「上小阿仁村」～「五城目」～「秋田駅」

JR八郎潟駅：バスで「上小阿仁村」～「五城目」～「八郎潟駅」

NPO 上小阿仁村福祉移動相互サービス協会

平成15年度9月よりボランティアによる移送活動を開始

道路運送法第40条許可通達により、村が運営協議会を設置

上小阿仁村過疎地有償運送等運営協議会

● 学識経験者

● 利用者代表

● バス事業者

● 移動サービス
運転者代表

● 上小阿仁村担当

● 行政協力員

● タクシー事業者

● 秋田運輸支局

協議事項

・ 既存バスやタクシーとの共存
・ 利用対象者
・ 利用時間帯

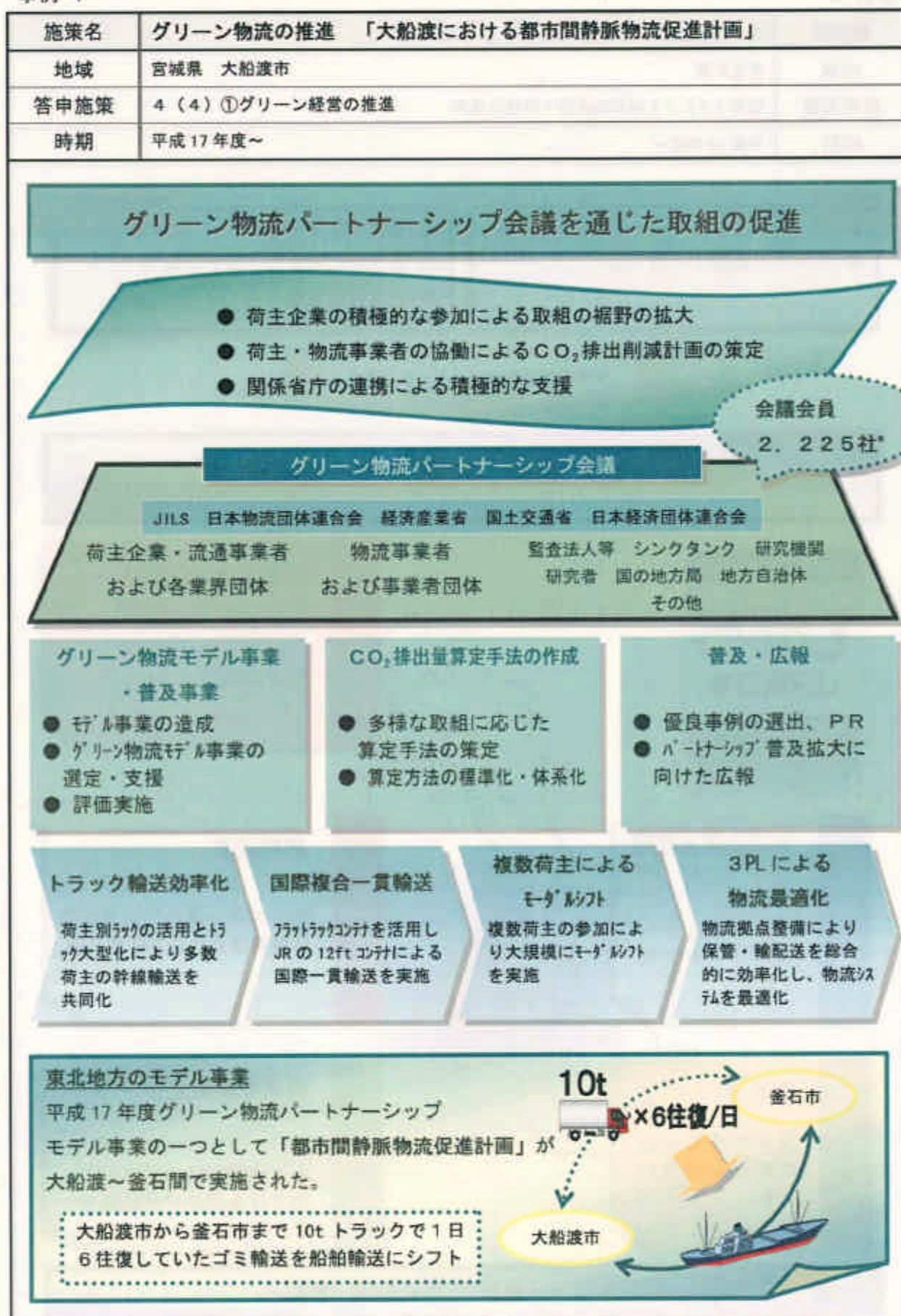
・ 村の体制
・ 許可申請書の内容
・ 運賃

秋田運輸支局に有償運送許可申請

NPO 法人上小阿仁村移送サービス協会 有償運送スタート

(平成17年12月から)

事例-1



* 数値は平成17年6月9日時点（グリーン物流HPより）

事例-J

施策名	冬の観光時の利便性向上「手ぶらでスキー」
地域	東北6県
答申施策	観光(1)1)地域の長所・特性の活用
時期	平成16年度～

問題点

- 冬季の観光需要の落ち込み

魅力的な資源

- 豊富なスキー場
- 東北ならではの「雪」の魅力
- 豊富な温泉場

公共交通活性化プロジェクト事業

手ぶらでスキー 対象スキー場の拡大

2006.1 ▶ 2006.3

[vju:]
びゅう
JR東日本

列車で行く
スキー&スノーボード

4 リフト乗り放題

滞在中はスキー場のリフトが乗り放題

5 鍋料理

宿泊施設では鍋料理が振る舞われる

1 何度でもレンタル

レンタルスキー・スノーボード・ウェアが滞在中何度でも利用可能

2 無料送迎

駅～スキー場～宿泊施設間は無料送迎バスで移動可能

3 温泉の湯めぐり

宿泊施設以外の温泉も利用できる湯めぐり特典つき

手ぶらで
スキー&温泉

(平成16年度～) オニコウベ(宮城)、たざわ湖(秋田)

(平成17年度～) 天元台(山形)、あだたら、グランデコ(福島)

事例-K

施策名	YOKOSO! JAPAN 東北・春
地域	東北6県
答申施策	観光(2) 1) 東北地方の官民が広域連携し一体となった外国人観光客の誘致活動の強化
時期	平成18年4月

東北6県の官民が一体となって、海外の重点市場(韓・台・中・香・タイ・シンガポール)から旅行エージェント40名、マスコミ20名のキーパーソン合計60名を招聘。

「東北視察ツアー」「国際シンポジウム」「誘客プロモーション」等を実施し、東北の「春」等の魅力を、重点市場に対し強力に情報発信し旅行商品造成を図る。

【事業概要】

日程 平成18年4月23日(日)～29日(土)

国際シンポジウム: 4月27日(木) 誘客プロモーション: 4月28日(金)

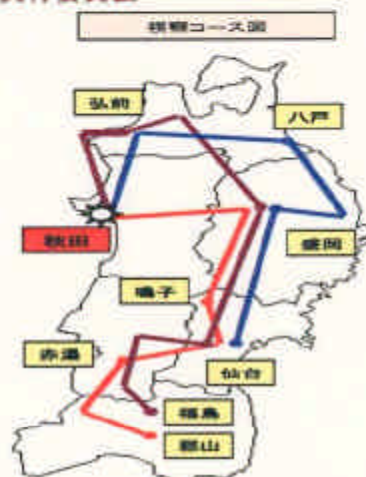
参加者数 海外からの招聘予定者: 60名 国際シンポ(一般参加者含む): 800名

主催 「YOKOSO! JAPAN 東北」実行委員会

東北視察ツアー

3コースにより東北各地を周遊し、東北の桜を中心とした「春」及び観光資源(風景、温泉、食など)を視察・体感

エージェントAコース ————
 エージェントBコース ————
 マスコミコース ————



国際シンポジウム及び誘客プロモーション

【国際シンポジウム】

(基調講演)

(パネルディスカッション)テーマ「東北の観光振興に向けて～その課題と戦略～」

(地域伝統芸能実演) ～過去のVJCで実演し、好評を博した東北の伝統芸能披露

【誘客プロモーション】

(インバウンドセミナー) ～海外からの招聘社によるインバウンド振興へのアドバイス

(交流商談会) ～東北の行政・観光関係者等と海外旅行エージェントによる商談

- 海外重点市場における東北の知名度向上と「春」を活かしたインバウンド商品の造成
- 2010年に向け今後東北地域が進める観光振興に向けた戦略等を検討

東北を訪れる外国人観光客の飛躍的拡大を図る